

「アラブ人学生歓迎プログラム 10 周年記念式典」

総合政策学部 4 年 兼定 愛

1. 目的

本企画は、日本語を学ぶアラブ人学生と、日本でアラビア語を学ぶ日本人学生の相互的な学術交流活動である「アラブ人学生歓迎プログラム(以下 ASP)」の 10 周年記念式典である。ASP とは、アラブ世界で日本語を学ぶ学生を日本に招聘し、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスでアラビア語を学ぶ学生たちとの交流による日本語短期研修プログラムである。2002 年に第 1 回を開催して以来今年で 10 年目を迎え、現在国内外の多くの卒業生が様々な環境で活躍している。

本事業では、過去 10 年間のアラブ人招聘者・日本人参加者と、現役の SFC 生との交流の場を設け、シンポジウムやディスカッションを催し、今後の学術交流活動の指針を模索する。



ディスカッション交流会(於:オリンピックセンター研修室)



ORF でのシンポジウム(於:東京ミッドタウン)

2. 「アラブ人学生歓迎プログラム 10 周年記念式典」の活動概要

期間:2010 年 11 月 21 日(月)～11 月 24 日(木)

場所:慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)、東京ミッドタウン、国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者:過去の招聘者:24 名(シリア人 13 名/モロッコ人 5 名/レバノン人 4 名/イエメン人 1 名/チュニジア人 1 名)

SFC 教員:2 名、奥田敦研究会 OB・OG:21 名、奥田敦研究会に所属する学生:30 名 (計 77 名)

3. 準備中・期間中の主なプログラム内容

2011 年 8 月	10 周年記念 ASP 実行委員会結成
11 月 21 日	過去の招聘者来日、打ち合わせ
11 月 22 日	「ディスカッション交流会」(10 時～12 時 於:国立オリンピック記念青少年総合センター研修室) 6 名 1 組、全 6 組に分かれ、ASP の体験談や、それが自分に与えた影響について、日本語またはアラビア語話し合い、それをもとに、学術交流の今後の展望について意見交換を行った。なお、各組で話し合った内容は事前に準備した所定の用紙に記録した。

同日夜	<p>「レセプションパーティー」(19時～22時 於:国立オリンピック記念青少年総合センターレセプションホール)</p> <p>奥田敦研究会映像班の制作した記録映像作品を上映し、当時のASP参加者たちのコメントを交えながら、過去10年間の活動を振り返った。また、午前中のディスカッションの成果について各組の代表者が報告を行い、アラブ・イスラーム圏と日本における国際学術交流活動の今後を展望した。(参加者:64名…教員2名、現役生28名、OB・OG14名、過去の招聘者20名)</p>
11月23日	<p>「ASP10周年記念国際シンポジウム」(14時～15時30分 於:東京ミッドタウン・カンファレンス4階Room6)</p> <p>奥田敦教授による基調講演「アラブ人学生歓迎プログラム(ASP)10年の軌跡と今後の展望」の後、奥田敦研究会映像班による「ASP10年の軌跡」上映、そして、パネルディスカッション「ASP10年のこれまでとこれから」を行った。</p> <p>パネルディスカッション第1部「ASPこれまでの10年」では、各現場からみたASP、参加者の感想とその後の変化について話し合った。第2部「10年後のASP」では、フロアとのやり取りを中心に、アラブと日本の学術交流活動の意義や発展の可能性について議論した。最後に奥田敦教授による総括「ASP今後の10年に向けて」をもってシンポジウムを閉会した。</p> <p>➤ 登壇者(敬称略):奥田敦(慶應義塾大学総合政策学部教授)兼司会、アフマド・アルマンズール(アレppo大学学術交流日本センター副所長)、小林裕美(JICA日本語教師/元ムハンマド5世大学(ラバト)日本語教師)、ハージ・ムハンマド(シリア/第3回招聘者)、ハッサン・ブーアマル(モロッコ/第7回招聘者)、カーシム・ユーセフ・カマル(レバノン/第8回招聘者)、植村さおり(政策・メディア研究科後期博士課程3年/第1回ASP委員長)、兼定愛(総合政策学部4年/第9回ASP委員長・10周年ASP幹事)</p>
同日夜	<p>「屋形船夕食会」(20時～22時 於:田町駅付近「屋形船芝浦石川」)</p> <p>日本の伝統的な食事と東京の夜景を楽しみながら、アフマド・アルマンズール教授、各国代表のアラブ人(過去の招聘者)、OB・OG、現役生の各学年代表が、それぞれにスピーチを行った。最後に、奥田敦教授からもご挨拶をいただき、今回の式典のまとめとした。(参加者:61名…教員2名、現役生27名、OB・OG12名、過去の招聘者20名)</p>
11月24日	東京観光、夜の飛行機で帰国

4. 予算の執行

本企画の飛行機代の一部として、湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」からの助成による予算を執行する予定であったが、他の財源からの支出で替えた。

5. 参考資料

「2011年度アラブ人学生歓迎プログラム(ASP2011)」公式 web サイト

(<http://nafidha.sfc.keio.ac.jp/asp/main.php>) なお、本企画の詳細に関する報告書を現在作成中である。

6. 謝辞

本プログラム実施に際し、ご協力いただきました全ての皆さまに心より感謝いたします。なお、本プログラムは2011年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワーク ミーティング基金」、慶應義塾大学「150年記念未来先導基金」のご支援、また寄付や学園祭での収益などにより行われました。